

77. 学生有志と地域住民による茅葺き民家再生の実践的研究

0910920041 妹尾章絵  
指導教員 市川尚紀准教授

茅葺き民家再生 学生有志 地域住民 相互扶助

1. 序論

1.1 研究の背景

昔はそれぞれの地域に多くの民家が存在し、お互い助け合いながら生活をしてきた。しかし、近年では、ライフスタイルの変化などによって、空き家が増加し、人と人との距離が遠くなった。そして、地域住民同士のコミュニケーションが取りにくくなり、相互扶助の仕組みが消失し、さらに古民家職人の減少・高齢化により伝統的古民家が全国で消滅しつつある。

1.2 研究の目的

このような背景から、今後は費用を抑えた古民家の再生活動や持続的な管理・運営を行うために、新しい相互扶助の関係を築くことが必要だと考える。よって本研究では、近畿大学の学生が主体となって活動している古民家再生プロジェクトの活動内容を研究対象として、「活動内容と技術」と「参加者」および「再生コスト」を明らかにした上で、「学生の教育効果」と「新たな相互扶助」について考察することを目的とする。

1.3 研究方法

まず、今まで古民家再生プロジェクトで、どのような技術や知識を得たのかを把握するため、2009年の8月から2013年の2月現在までの活動日程や活動内容、参加者を記録し、整理する。次に、豊栄の茅葺き民家再生の活動に参加し、民家の写真を撮り、民家の実測と要修繕箇所を調査を行う。そして、「活動内容と技術」と「参加者」、「再生コスト」について毎回記録・集計する。また、情報不足の際には主催者へのヒヤリングで補う。

2. 研究対象概要

2.1 古民家再生プロジェクトの概要

2009年の春に発足した東広島の茅葺き民家の再生活動を行う有志の近畿大学工学部の建築学科生を主体とし、地域住民、NPO 団体、地元の茅葺き職人で構成されたプロジェクトチームである。

2.2 豊栄の茅葺き民家の概要

この民家は、東広島市豊栄町能良にある茅葺き民家である。2012年4月時点の平面図、立面図、断面図を図1

～3に示す。この民家は、母屋と納屋が離れた別棟の入母屋形式であり、昔は塾の合宿所として使用されていたが10年前から空き家となっている。

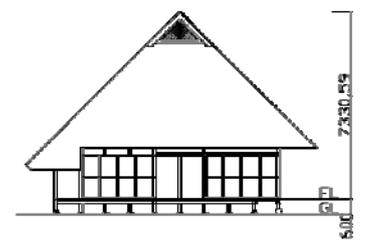


図2 西立面図

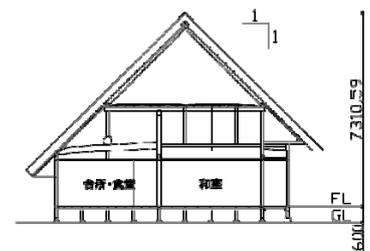


図3 Y方向断面図

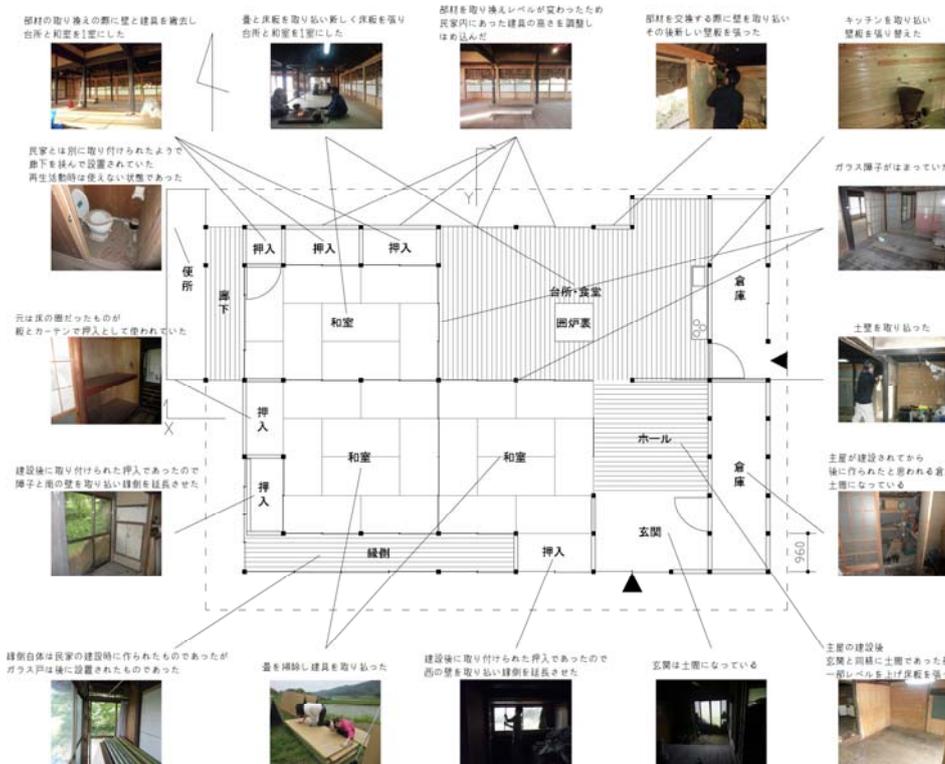


図1 豊栄の茅葺き民家の平面図と修繕内容(2012年4月時点)

A Study on Renovation of Thatched Roof House by the Interested Undergraduates and the Inhabitants

SEO Akie

3. 「活動内容と技術」「参加者」「再生コスト」

3.1 豊栄の茅葺き民家の再生の活動内容

2012 年 4 月から 2013 年 2 月までの豊栄の茅葺き民家の再生の活動内容と工程を図 4 に示す。民家には、長年の雨などで北の法面の土が、泥となって排水路と民家の北の基礎に流れ込んでいた。そのため、2012 年 4 月時点で、北の柱は最大-10cm 沈んでおり、建具が全く動かない状態であったが、南の柱はほとんど沈んでおらず、建具も簡単に動かすことができる状態であった。

作業は、民家内の掃除から始まり、レベルを計測し、主に各部材の取り換えを行った。北の屋根の一部は雨漏りしていたため差茅を行い、床板を張り換えた。最後に、来春の葺き替えのために茅刈りを行った。

小屋組の確認や部材の交換は、職人が必要な作業であった。しかし、差茅は職人と共に行い、内装工事は職人の指導のもと、作業はほとんど学生が行った。

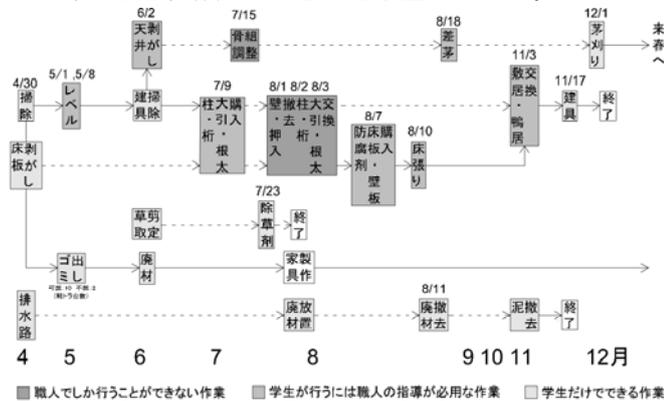


図 4 活動内容と工程

3.2 豊栄の茅葺き民家の再生活動の参加学生数

豊栄の茅葺き民家の再生活動の参加者数を図 5 に示す。最多参加学生数は 27 人であり、臨時の活動を除いた最少参加学生数は 6 人である。臨時の活動を含めた学生の累計人数 182 人を、活動日数の 14 日で割って計算すると 1 回当たりの参加学生数は 13 人/回である。

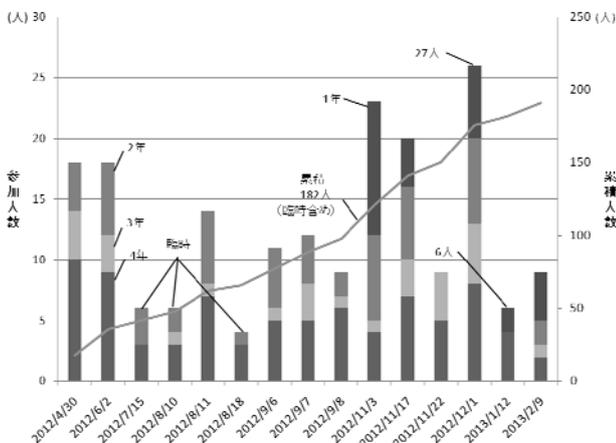


図 5 参加学生数 (全学年での活動のみ)

3.3 豊栄の茅葺き民家の再生活動のコスト

豊栄の茅葺き民家再生のコストを表 1 に示す。工事材

料費と活動費を、一般参加者を含めた累計参加人数 285 人で割って計算すると 1 人当たりの工事材料費は 1,559 円/人、活動費は 400 円/人。計 1,959 円/人である。この額を参加費とすると参加費が高額になり、再生活動に興味があっても参加できない学生が出てくる可能性が高いため、大学経費や助成金なしでは成り立たないを考える。

表 1 豊栄の茅葺き民家再生のコスト

収入の部		支出の部		
項目	金額(円)	項目	金額(円)	
参加費	143,300	工事材料費	消耗品、材料費など	26,379
大学経費	119,275		工事費	242,340
助成金	194,686		建築材料	178,457
寄付	133,215	活動費	交通	29,000
計	590,476円		飲食	65,488
			道具	8,893
			保険	10,500
		計	561,057円	

4. 学生の教育効果と新たな相互扶助について

4.1 学生の教育効果

再生活動では、学生は新しい友達や先輩・後輩と出会い、学生生活を一層充実したものにできる。また、地域住民や多様な専門家から直接指導してもらうため、他分野・多世代の人とコミュニケーションをとることができる。しかし、再生活動に必要な費用は高額であるため、参加費が高額であれば、自発的な学生が参加しなくなる可能性があるが、学生はその分責任感を持って作業を行っている。

4.2 新たな相互扶助

学生が茅葺き民家の維持を手助けすることで、学生には茅葺きの技術・知識を得ることができ、家主は人件費などの費用の負担を半減することができる。さらに、農家は耕作放棄地を茅場として提供すれば、昔の相互扶助と同じような関係ができる。

5. 結論

- (1) 茅葺き民家の再生は職人が必要な作業もあるが、学生でもできる作業が多いことがわかった。学生の参加者数は一定ではないが、茅葺き民家に関心を持った多くの学生が、有料で単位も与えられないにもかかわらず参加している。しかし、活動に必要なコスト全てを参加費で賄うと成り立たない。
- (2) 学生が古民家再生プロジェクトに参加することで、コミュニケーション能力を高めることができ、また学校ではできない体験学習もできる。
- (3) 学生は茅葺きの技術・知識を得るため、維持作業を手伝うことで新たな相互扶助の仕組みができる可能性が高い。

参考文献

1) 安藤邦廣：茅葺きの民俗学 生活技術としての民家、はる書店、2000.6  
 2) 山本幸子、他 2 名：地元住民団体による茅葺き民家の再生、日本建築学会技術報告集第 24 号、pp.349-354、2006.12 3) 長岡正宏：かやぶきの素顔、自主製作